

青森県高体連スケート専門部 沿革

年号	主 な 出 来 事
昭和22年度	青森県高体連スケート専門部発足
昭和24年度	第1回県下高校スケート競技大会〔以下、県下高校大会〕実施
昭和25年度	第6回国体(八戸)において畑中克夫(八戸工業)がスピード高校男子500m・1500mで優勝、青森県チームが高校男子2000mリレーで優勝
昭和27年度	第2回全国高等学校スケート競技選手権大会〔以下、インターハイ〕を八戸市で開催
	第2回インターハイ(八戸)において藤田幸子(八戸東)がスピード女子500m・1000mで、佐々木邦子(八戸千葉)がスピード女子3000m・5000mで、八戸東高校がスピード女子1600mリレーおよびスピード女子学校対抗で優勝(初)
	第8回国体(盛岡)において佐々木邦子(千葉学園)がスピード女子3000m・5000mで優勝
昭和28年度	結氷不良のため、第5回県下高校大会のスピード競技が中止
昭和29年度	第4回インターハイ(美鈴湖)において藤田幸子(八戸東)がスピード女子500mで優勝
昭和30年度	第5回インターハイを八戸市で開催(2度目)
昭和31年度	第6回インターハイ(日光細尾)において富岡武子(白菊学園)がスピード女子3000mで優勝
昭和32年度	昭和33年1月の県下高校大会を夏季大会と回数を含わせるため第11回大会として実施(第9回、第10回は欠番)
昭和33年度	第8回インターハイ(帯広緑ヶ丘)において町田隆夫(光星学院)がスピード男子5000mで優勝
昭和34年度	第1回県下高等学校新人スケート競技会を開催
昭和36年度	第11回インターハイを八戸市で開催(3度目)
	第11回インターハイ(八戸長根)において出町嘉明(光星学院)がスピード男子5000mで優勝
昭和38年度	県下高校大会から県高校総体スケート競技会〔以下、県高総体〕に大会名を改称
昭和39年度	第1回NHK杯県下高校スケート競技会を県高総体と兼ねて開催
昭和39年度	昭和40年1月に夏季大会と回数を含わせるため回数をつけずに高総体を実施
昭和40年度	第15回インターハイ(盛岡)において東隆(八戸市商)がスピード男子10000mで優勝
昭和44年度	高橋晃武氏が全国高等学校体育連盟スケート専門部〔以下、全国スケート専門部〕部長に就任(昭和48年度まで5年間)
昭和45年度	第20回インターハイを八戸市で開催(4度目)
昭和46年度	第26回国体(八戸)において中田敏彦(八戸工業)がスピード高校男子5000mで優勝
	第21回インターハイ(日光)において東徹(八戸市商)がスピード男子5000mで優勝
	第24回県高総体から女子フィギュア実施(学校対抗は第25回大会から)
昭和47年度	第27回国体(日光)において田村祐治(光星学院)がスピード高校男子5000mで優勝
	第22回インターハイ(盛岡)において宮古政則(光星学院)がスピード男子1500mで、東徹(八戸市商)がスピード男子10000mで優勝
昭和48年度	第28回国体(盛岡)において宮古政則(光星学院)がスピード高校男子1500mで優勝
昭和49年度	若林繁氏が全国スケート専門部部長に就任(昭和59年度まで11年間)
昭和50年度	第25回インターハイを八戸市で開催(5度目)
	第25回インターハイ(八戸)において市川真貴子(八戸西)がスピード女子1000mで優勝
昭和51年度	第31回国体(日光)において橋本隆子(八戸北)、宮古正子(百石)、十日市順子(八戸工業)、市川真貴子(八戸西)がスピード少年女子2000mリレーで優勝
昭和56年度	第26回インターハイのアイスホッケー競技を八戸市で開催
昭和57年度	第31回インターハイを八戸市で開催(6度目)
昭和57年度	沼館健二氏が全国専門部スピード競技委員長に就任(昭和62年度まで6年間)
昭和59年度	第34回インターハイ(日光)において光星学院高校がフィギュア女子学校対抗で優勝
昭和59年度	第40回国体(八戸)において小軽米智子(八戸西)がスピード少年女子1500mで優勝
昭和60年度	第38回県高総体から男子フィギュア実施
	第35回インターハイ(伊香保)において光星学院高校がフィギュア女子学校対抗で優勝(2連覇)
	第36回インターハイを八戸市で開催(7度目)
昭和61年度	第36回インターハイ(八戸)において村田光弘(八戸南)がフィギュア男子個人で、八戸南高校がフィギュア男子学校対抗で優勝
	第42回国体(軽井沢)において小軽米智子(八戸西)がスピード少年女子3000mで、村田光弘(八戸南)がフィギュア少年男子個人で優勝
昭和62年度	第37回インターハイ(帯広)において小笠原広文(光星学院)がスピード男子1500mで、村田光弘(八戸南)がフィギュア男子個人で優勝(2連覇)
平成元年度	第45回国体(盛岡)において村崎匡裕(光星学院)がスピード少年男子1000mで優勝
平成5年度	第43回インターハイ(郡山)において八戸聖ウルスラ学院高校がフィギュア女子学校対抗で優勝
平成6年度	岩見秋夫氏が全国専門部部長に就任(1年間)、田名部和彦氏が全国専門部事務局長に就任(平成9年度まで4年間)
平成6年度	第44回インターハイを八戸市で開催(8度目)
平成7年度	第50回国体(郡山)において成田亜希(光星学院)がスピード少年女子3000mで優勝
平成7年度	山崎猛氏が全国専門部部長に就任(平成8年度まで2年間)
平成8年度	第46回インターハイ(釧路)において伊勢俊一(百石)がスピード男子10000mで優勝
	第52回国体(釧路)において工藤範秋(光星学院)がスピード少年男子1000mで、伊勢秀一(百石)がスピード少年男子5000mで優勝
平成9年度	松崎徹氏が全国専門部部長に就任(1年間)
	第47回インターハイのアイスホッケー競技を八戸市で開催(9度目)
平成13年度	第53回国体(盛岡)において伊勢秀一(百石)がスピード少年男子10000mで優勝
平成13年度	田名部和彦氏が全国専門部スピード競技委員長に就任(平成14年度まで2年間)
平成14年度	第58回国体(伊香保)において藤ヶ森一樹(百石)がスピード少年男子5000mで優勝
平成15年度	東隆氏が全国専門部スピード競技委員長に就任(平成16年度まで2年間)
平成15年度	第59回国体(八戸)において下村将嘉(八戸商業)がスピード少年男子5000mで優勝
平成16年度	第54回インターハイを八戸市・三沢市・福地村で開催(10度目)(スピード・フィギュアは9度目)
平成17年度	田名部和彦氏が全国専門部部長に就任(平成20年度まで4年間)
平成19年度	第57回インターハイ(富士吉田)において在家範将(八戸商業)がスピード男子5000mで、松尾駿(八戸西)がスピード男子10000mで優勝
平成19年度	第63回国体(長野)において松尾駿(八戸西)がスピード少年男子10000mで優勝
平成25年度	第63回インターハイを八戸市・三沢市・南部町で開催(11度目)(スピード・フィギュアは10度目)
平成26年度	第64回インターハイ(山形)において山本大史(八戸西)がスピード男子5000mで優勝
平成28年度	第66回インターハイ(日光)において山本大史(八戸西)がスピード男子10000mで優勝
平成30年度	第68回インターハイのアイスホッケー競技を八戸市・南部町で開催(12度目)
令和元年度	県新人戦(スピード・フィギュア)の単独開催をやめ、連盟主催大会の結果を採用する形に変更
令和2年度	第70回インターハイ(長野)において橋本芳彦(八戸西)がスピード男子10000mで優勝
令和3年度	第71回インターハイを青森市・八戸市・南部町で開催(13度目)(スピード・フィギュアは11度目)
令和4年度	第13回全国高校選抜(帯広)において根城理実(八戸西)が女子マスタートで優勝
令和5年度	第73回インターハイのアイスホッケー競技を八戸市・南部町で開催(14度目)